

ショートコメント vol.156 (2019年11月14日)

テーマ：来夏に吹く関西経済への追い風
～増税後の沈滞ムードを払拭する期待も～

●消費増税のスタートとその影響

10月から消費増税がスタートし、その影響が注目されている。今回は増税幅が小さく、軽減税率などの負担軽減策もあるため、影響を楽観視する声が少なくなかったが、実際には大きな影響が出ている(図表1)。

駆け込み需要の反動減にとどまらず、軽減税率の対象である食品などの販売減も確認されており、今後、幅広い節約の動きにつながる恐れもある。

景気の先行きについては、増税の影響次第ともいえ、その行方が大きなカギを握る。来年度も影響が残る恐れがある中、6月末にはキャッシュレス決済のポイント還元制度が期限を迎えることで、さらなる停滞につながる懸念もある。

●来夏に吹く追い風

そういった中、来夏については、関西に2つの大きなプラス材料が存在する。

その一つは、インバウンドの増加である。もともと来夏は東京五輪の開催時期であり、関東以外の地域はレジャーの集客に苦勞する可能性が高い。ただし、ことインバウンドについては、東京の混雑を避けて行き先を決める動きも出るとみられ、例年を上回る入込を達成する可能性も否定できない。

特に、関西は東京の混雑を避けるにはちょうどよい距離にあり、さらに世界的に有名な観光名所を多く抱えることから、最大の受け皿となってもおかしくない。

●USJの新アトラクション

そして、もう一つのプラス材料がユニバーサルスタジオジャパン(USJ)の新アトラクション開業である。来年の夏に「スーパー・ニンテンドー・ワールド」がオープンする。USJの発表によると、同アトラクションへの投資額は600億円に上る。これは14年の開業時に話題を集めた「ウィザーディング・ワールド・オブ・ハリーポッター」の450億円を大きく上回る金額である(図表2)。

ハリーポッターと同様、今回も世界的に注目を集めており、開業時には国内外からの多くの来場が予想される。特に、インバウンドの増加への期待は大きい。当時の動きをみると、開業の14年7月を境に、関西への来訪が一気に増えた様子が分かる(図表3)。もち

【図表1】 景気ウォッチャー調査・現状判断DIの推移



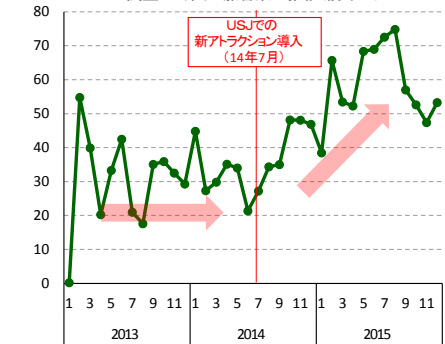
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

【図表2】 USJによるアトラクション導入の動き

時期	アトラクション	投資額
2010年	スペース・ファンタジー・ザ・ライド	50億円
2014年	ウィザーディング・ワールド・オブ・ハリーポッター	450億円
2016年	フライング・ダイナソー	100億円
2017年	ミニオン・パーク	100億円
2020年夏(予定)	スーパー・ニンテンドー・ワールド	600億円

(出所)公表資料等をもとに、リそな総研作成

【図表3】 関空の外国人旅客数の推移(前年比)



(出所)関西エアポート「空港利用状況」

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

ろんそのほかの要因もあるにせよ、7月が一つの転機となったことは間違いない。

先に述べたように、今回は東京五輪の開催と重なるため、もともとインバウンドには東京を避けて来訪地を選ぶ傾向が強まる。そこに新アトラクションの開業が加わることで、一気に関西への訪問率が高まる可能性は高いといえよう。

●前回の増税後との相似形

来夏の時点で、消費増税の影響が残る可能性がある中、仮にインバウンド市場が大きく盛り上がることになれば、関西景気にとっては一つの僥倖といえよう。これを機に、増税による沈滞ムードが払拭できる期待も高まる。

奇しくも「ウィザーディング・ワールド・オブ・ハリーポッター」の開業も、前回の増税の3か月後というタイミングであった。2回続けて、増税後の沈滞ムードを吹き飛ばす役割に期待したい。

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:070-6633-0038 mail:hd-araki@rri.co.jp